

ビジネスゲーム M-Cass プレゼンツ

税理士・公認会計士・簿記検定1級試験向け
簿記出題パターンマスター問題集

商品売買・債権債務&会計理論編



著作権はビジネスゲーム M-Cass にあります。

<はじめに>

1、当問題集の趣旨について

当問題集は、簿記の問題がどのような作りになっているのか、それを理解していただくことを主眼としています。簿記は企業活動を会計帳簿に記録し、最終的には決算書にまとめるための技術ですが、そのことへの理解と、簿記の試験で点数をとることは必ずしもイコールとはなりません。なぜなら、簿記の試験では金額が推定になっていたり、資料の与え方が工夫されていたり、また制限時間では解ききれないほどのボリュームの問題が出題されたりするからです。よって、試験に合格するためには、簿記に対する理解は当然のこととして、その理解を前提に、問題集を通して簿記の試験に慣れること、および、点数を取るための学習も併せて行っていかなければなりません。このため、当問題集では、まず基本の仕訳を学習する問題を収録し、取引の仕訳を一通り学習した後に、簿記の出題パターンに組み替えた問題を解くという内容になっています。このことにより、簿記の問題がどのように作られているのかということを知り、その理解によって、結局は基本の仕訳をおさえることが重要であること、問題を解く時にはどのような視点をもっておくべきか、ということを知ることができたいと思います。

2、当問題集の利用方法について

当問題集では、まず月曜日～火曜日分の問題において、取引の基本の仕訳を確認していただきます。そして、水曜日～金曜日分の問題では、各出題パターンの問題を解いていただきます。このことにより、簿記の問題がどのような作りになっているのかを理解していただくとともに、出題パターンに慣れることや、最終的には基本の仕訳をおさえることの重要性を理解していただきます。また、解説では、効率的な解き方についても言及していますので、自分なりの解き方を構築するときの参考にしてください。

さらに、今回の問題では会計理論の問題についても出題しております。税理士試験や公認会計士試験のみならず、日商簿記検定1級試験や全経上級試験でも会計理論に関する問題が出題されます。この理論問題についての対策ですが、計算と理論とを分けて学習するのではなく、セットで学習すべきです。よって、本問を通してそのことを理解していただきたいと思います。

とにかく、学習というのは楽しんでやるものです。隙間時間にでも、肩の力を抜いて、楽しみながら本問を解いてみて下さい。

◆商品売買と債権債務（簿記一巡型の問題1） 解答時間：初学者1分 経験者15分

問題（月曜日）

下記資料の取引を処理し、期末における決算整理前残高試算表を作成しなさい。
 なお、会計期間は×4年4月1日から×5年3月31日とする。

<資料1>繰越試算表

繰越試算表（一部）		単位：千円
繰越商品	2,400	買掛金 2,000
売掛金	20,000	貸倒引当金 600

<資料2>期中における取引は以下の通りである。

- 4月1日：商品10,000千円を掛けで仕入れた（仕入先はa社から5,000千円、b社から5,000千円）。
- 4月6日：上記仕入について、返品70千円、値引50千円、割戻し40千円が行われた（いずれも買掛金と相殺する）。
- 4月10日：買掛金につき、仕入割引200千円を受けた（買掛金と相殺する）。
- 4月12日：買掛金のうち、6,640千円を現金で支払い、2,000千円については、得意先引受の為替手形を振り出した。
- 5月1日：得意先に商品を15,000千円で販売し、代金は掛けたとした（得意先は甲社10,000千円、乙社5,000千円）。
- 5月4日：上記売上について、返品200千円、値引100千円を受けた。
- 5月10日：売掛金につき、売上割引120千円を行った（売掛金と相殺する）。
- 5月13日：売掛金のうち、10,000千円を現金で回収した。
- 5月14日：前期発生売掛金のうち、580千円が貸倒れた。

解答欄

決算整理前残高試算表（一部）		単位：千円
繰越商品	()	買掛金 ()
売掛金	()	貸倒引当金 ()
仕入	()	売上 ()
売上割引	()	仕入割引 ()

◆商品売買と債権債務（簿記一巡型の問題2） 目標時間：初学者 12分 経験者 10分

問題（火曜日）

下記資料に基づき決算整理を行い、損益計算書を作成しなさい。

なお、会計期間は×4年4月1日から×5年3月31日とする。

<資料1>決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	2,400	買掛金	3,000
売掛金	22,000	貸倒引当金	20
仕入	9,840	売上	14,700
売上割引	120	仕入割引	200

<資料2>決算整理事項

- 1、期末商品棚卸高は400千円である（棚卸減耗損及び商品評価損は生じていない）。
- 2、売掛金の期末残高に対して、貸倒実績率法（差額補充法）により貸倒引当金を設定する。なお、貸倒実績率は過去3年間の貸倒率の平均として一律に算定する。

	売掛金期末残高	貸倒金額	貸倒率
×1年3/31	10,000千円	300千円	3%
×2年3/31	5,000千円	100千円	2%
×3年3/31	15,000千円	150千円	1%

解答欄

損益計算書（一部）

I 売上高	
II 売上原価	_____
売上総利益	
III 販売費及び一般管理費	
()	_____
営業利益	
IV 営業外収益	
()	
V 営業外費用	
()	_____
経常利益	

【解 答】

損益計算書（一部）	
I 売上高	14,700
II 売上原価	11,840
売上総利益	2,860
III 販売費及び一般管理費	
（貸倒引当金繰入）	420
営業利益	2,440
IV 営業外収益	
（仕入割引）	200
V 営業外費用	
（売上割引）	120
経常利益	2,520

【解 説】

前回と今回の問題により、商品売買取引の期首から期末までの処理を確認したことになります。今回は、売上原価の算定と貸倒引当金の設定という決算整理仕訳を中心に、損益計算書の作成が問われています。本問では、問題の指示通りに貸倒実績率を計算できたかどうか、売上割引と仕入割引の損益計算書の表示を覚えていたかどうかポイントとなります。

<決算整理仕訳>

1、売上原価の算定について

3/31 〔借方〕 仕 入 2,400 〔貸方〕 繰 越 商 品 2,400
〔借方〕 繰 越 商 品 400 〔貸方〕 仕 入 400

2、貸倒引当金の設定について

3/31 〔借方〕 貸倒引当金繰入 420 〔貸方〕 貸 倒 引 当 金 420

貸倒実績率の計算： $(3\% + 2\% + 1\%) \div 3 \text{年} = 2\%$

貸倒引当金繰入額： $22,000 \text{千円} \times 2\% - \text{貸倒引当金残高 } 20 \text{千円} = 420 \text{千円}$

<仕入割引と売上割引について>

割引は値引きや返品等と異なり、掛代金の早期回収や早期決済による金融上の損益となります。よって、財務活動上の損益として、「売上割引」や「仕入割引」という独立した勘定科目を使って仕訳をし、損益計算書の営業外費用または営業外収益に計上します。値引や割戻しと混同しやすいので、間違わないように注意しましょう。

◆商品売買と債権債務（簿記一巡型の問題3） 目標時間：初学者 20分 経験者 15分

問題（水曜日）

下記資料の取引を処理し、期末における決算整理後残高試算表を作成しなさい。
 なお、会計期間は×4年4月1日から×5年3月31日とする。

<資料1>繰越試算表

繰越試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	2,400	買掛金	2,000
売掛金	20,000	貸倒引当金	600

<資料2>期中における取引は以下の通りである。

1、仕入取引（すべて掛）

仕入高：10,000千円 値引高：50千円 割戻高40千円 戻し高：70千円
 割引高（掛と相殺）：200千円

2、売上取引（すべて掛）

売上高：15,000千円 値引高：100千円 戻り高：200千円 割引高120千円

3、売上債権

回収高：10,000千円 貸倒れ高（すべて前期発生分）：580千円

4、仕入債務

決済高8,640千円（うち、現金払い6,640千円、為替手形振出2,000千円）

<資料3>決算整理事項

- 1、期末商品棚卸高400千円（棚卸減耗損及び商品評価損は生じていない）。
- 2、売掛金の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を設定（差額補充法）する。

解答欄

決算整理後残高試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	()	買掛金	()
売掛金	()	貸倒引当金	()
仕入	()	売上	()
貸倒引当金繰入	()	仕入割引	()
売上割引	()		

【解答】

決算整理後残高試算表（一部）

単位：千円

繰越商品	(400)	買掛金	(3,000)
売掛金	(22,000)	貸倒引当金	(440)
仕入	(11,840)	売上	(14,700)
貸倒引当金繰入	(420)	仕入割引	(200)
売上割引	(120)		

【解説】

簿記の総合問題には、期首から期末までの処理を問う簿記一巡型の問題と、前 T/B をスタートとし、決算整理を主に問う決算整理型の問題の2つがあります。このうち、本問は、簿記一巡型の問題となります。簿記一巡型の問題では、期首から期末までの処理が問われるため、いかに正確かつ迅速に仕訳をし、金額を集計できるかがポイントとなります。また、問題の出題形式にも着目して下さい。期中の取引が日付順ではなく、各取引ごとにまとまった形で出題されています。このように、問われていることは同じでも出題形式にも色々なパターンがありますので、問題集などを通して、出題形式に慣れるようにしておきましょう。以下に T 勘定で金額を集計した場合を示しておきます。

< T 勘定による金額の集計 > 金額が頻繁に動く勘定科目のみ

本問の期中仕訳と決算整理仕訳は月曜日と火曜日の解答を参照して下さい。

仕 入		買 掛 金	
10,000	160	160	2,000
2,400	400	200	10,000
		8,640	
売 掛 金		売 上	
20,000	2,000	300	15,000
15,000	300		
	120		
	10,000		
	580		

☆アドバイス☆頭の中で仕訳をきって、T 勘定で金額を集計。

通常、簿記一巡型の問題は、ボリュームの多い問題として出題されます。よって、迅速に仕訳をきって、金額を集計する必要があります。このため、本問レベルの取引であれば、計算用紙に T 勘定だけを書き、仕訳は頭の中できっていき、T 勘定の方にとんどん転記していくことで金額を集計するとよいでしょう。

◆商品売買と債権債務（指示・未処理・誤処理問題） 解答時間：初学者 20 分 経験者 15

問題（木曜日）

下記資料に基づき決算整理を行い、決算整理後残高試算表を作成しなさい。
 なお、会計期間は×4年4月1日から×5年3月31日とする。

<資料1>決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	2,400	買掛金	3,000
売掛金	22,420	貸倒引当金	20
仕入	9,640	売上	15,000

<資料2>修正事項及び決算整理事項

1、仕入債務について

仕入取引は以下の通りである（すべて掛仕入）。

仕入高：10,000 千円 値引高：50 千円 割戻高 40 千円 戻し高：70 千円

割引高（掛と相殺）：200 千円

なお、上記、値引等はすべて仕入取引の取消として処理されている。

2、売上債権について

売上取引は以下の通りである（すべて掛売上）。

売上高：15,000 千円 値引高：100 千円 戻り高：200 千円 割引高 120 千円

なお、上記、値引等はすべて未処理であった。

3、期末商品棚卸高について

期末商品棚卸高 400 千円（棚卸減耗損及び商品評価損は生じていない）。

4、貸倒引当金の設定について

売掛金の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を設定（差額補充法）する

解答欄

決算整理後残高試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	()	買掛金	()
売掛金	()	貸倒引当金	()
仕入	()	売上	()
貸倒引当金繰入	()	仕入割引	()
売上割引	()		

【解答】

決算整理後残高試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	(400)	買掛金	(3,000)
売掛金	(22,000)	貸倒引当金	(440)
仕入	(11,840)	売上	(14,700)
貸倒引当金繰入	(420)	仕入割引	(200)
売上割引	(120)		

【解説】

本問は、決算整理前残高試算表をスタートとする、決算整理型の問題です。売上原価の算定や貸倒引当金の決算整理仕訳をする前に、期中における値引や返品、割引などの処理が誤処理や未処理となっていますので、まずは、これらの処理をおこなってから、決算整理に入ります。

<修正仕訳>

1、仕入債務における誤処理の訂正（仕入割引）

誤り	〔借方〕	買掛金	200	〔貸方〕	仕入	200
訂正	〔借方〕	仕入	200	〔貸方〕	仕入割引	200

2、売上債権の未処理の訂正

〔借方〕	売上	300	〔貸方〕	売掛金	300
〔借方〕	売上割引	120	〔貸方〕	売掛金	120

<決算整理仕訳>上記の修正が終わったら、心置きなく決算整理に入ります。

売上原価の算定・貸倒引当金→火曜日（簿記一巡型の問題2）の解答を参照して下さい。

☆アドバイス☆記録をとっておくことの大切さ。

「あ～またミスして失点した・・・」「この問題、以前に解いたことあるはずなのに解けないな・・・」誰しもが簿記の勉強で経験することです。試験勉強では力任せに学習を進めるだけではダメで、やはり要領というものも考える必要があります。その要領を得るために、学習の記録をとっておくのも1つの方法です。例えば、ミスによる失点を繰り返すのであれば、ミスした部分を記録しておくのです。そのことより、自分自身のミスの傾向を知ることができ、対策を立てることができます。例えば、問題の余白にミスの記録をとっておいて、計算の部分でいつもミスしているという傾向が明らかになれば、「計算式を書いて、それを指でなぞりながら電卓を叩いて計算する」というようなミス対策を立てることができますよね。

◆商品売買と債権債務（推定問題） 解答時間：初学者 20 分 経験者 18 分

問題（金曜日）

下記資料に基づき決算整理を行い、貸借対照表を作成しなさい。

なお、会計期間は×4年4月1日から×5年3月31日とする。

<資料1>決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）		単位：千円	
繰越商品	2,400	買掛金	3,000
売掛金	?	貸倒引当金	20
仕入	9,840	売上	14,700
売上割引	120	仕入割引	200

<資料2>決算整理事項

1、売上債権に関する事項

売掛金の期首残高は 20,000 千円、売上による増加額は？千円、回収額は 12,000 千円、貸倒れ額（前期発生分）は？千円である。なお、期中において、売上戻り 200 千円、値引 100 千円、割引 120 千円（すべて掛と相殺）が行われている。

2、貸倒引当金に関する事項

貸倒引当金の期首残高は 600 千円であり、当期においてその一部を取崩している。なお、貸倒引当金は差額補充法により、売上債権の期末残高に対して 2% 設定する。

3、期末商品棚卸高に関する事項

期末商品棚卸高 400 千円（棚卸減耗損及び商品評価損は発生していない）

【解答欄】

貸借対照表（一部）		単位：千円	
I 流動資産		I 流動負債	
商品	()	買掛金	()
売掛金	()		
貸倒引当金	(△) ()		

【解 答】

貸借対照表（一部）

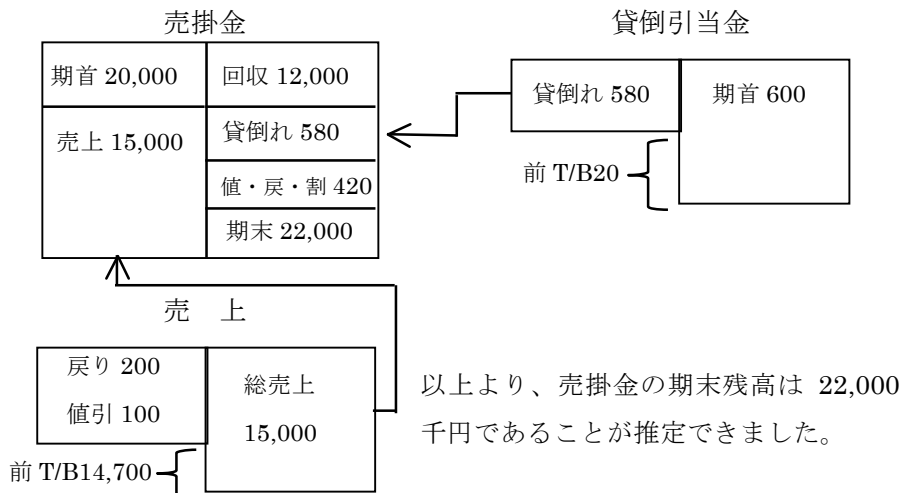
単位：千円

I 流動資産		I 流動負債	
商 品	(400)	買 掛 金	(3,000)
売 掛 金	(22,000)		
貸倒引当金	(△440) (21,560)		

【解 説】

簿記の出題パターンとして、今回は推定問題となっています。
仕訳を思い出しながら、T 勘定を書いて勘定分析により計算していきます。

1、売掛金の推定（勘定分析による推定）



2、決算整理仕訳

売上原価の算定・貸倒引当金の設定→火曜日（簿記一巡型の問題 2）の解答を参照して下さい。

☆アドバイス☆仕訳さえできれば、簿記の問題は解ける。

本問のように、勘定分析で金額を推定する問題であっても、結局は仕訳がきれないと勘定分析もできないことがお分かりいただけたかと思います。逆に言えば仕訳さえできれば、簿記の問題は解けるということです。よって、普段の学習から、仕訳と転記をしっかりと学習するようにしましょう。特に勘定分析は特殊商品売買やキャッシュ・フロー計算書の作成問題で必要となってきます。

◆期末棚卸資産の評価（会計理論の問題） 解答時間：初学者 10 分 経験者 8 分

問題（月曜日）

問題 1 以下は「棚卸資産の評価に関する会計基準」からの抜粋である。

次の文章の()にあてはまる用語を答えなさい。

通常の販売目的(販売するための製造目的を含む。)で保有する棚卸資産は、(A)
をもって貸借対照表価額とし、期末における (B) が取得原価よりも下落してい
る場合には、当該 (B) をもって貸借対照表価額とする。この場合において、
(A) と当該 (B) との差額は (C) として処理する。

問題 2 次の文章について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を答案用
紙の所定の欄に記入しなさい。

- 1、通常の販売目的で保有する棚卸資産は、正味売却価額をもって貸借対照表評価額とする。
- 2、通常の販売目的で保有する棚卸資産について、収益性の低下による簿価切下額は営業外費用とする。

問題 3 通常の販売目的で保有する棚卸資産について、収益性の低下による帳簿価額の切下げが強制されるが、その理由を述べよ。

解答欄

問題 1 A. B. C.

問題 2 1. 2.

問題 3

【解 答】(棚卸資産の評価に関する会計基準 7 及び 17 参照)

問題 1 A. 取得原価 B. 正味売却価額 C. 当期の費用

問題 2 1. × 2. ×

問題 3

金融商品基準や減損会計基準では、収益性が低下した場合、回収可能な額まで帳簿価額を切り下げる処理が行われている。そこで、棚卸資産についても、帳簿価額を回収可能な原価まで切り下げ、将来に損失を繰り延べないこととした。
--

【解 説】

本問では、まいにち簿記の第 1 回 (1 週目) 連載で出題した、期末棚卸資産の評価に関する理論問題を出題しました。理論問題は、税理士試験や公認会計士試験のみならず、日商簿記検定 1 級試験や全経上級試験でも出題されます。このため、これらの試験を受験される方にとっては、理論問題対策は必須です。効果的な理論問題の対策方法としては、「仕訳とセットで理論をおさえる」という方法がオススメです。

まず、期末棚卸資産に関して、商品評価損が生じる場合の仕訳を思い出してみてください。
<商品評価損が生じる場合の決算整理仕訳>

3/31 [借方] 商品評価損 ××× [貸方] 繰越商品 ×××

簿記の学習では、上記の仕訳と計算方法を勉強しますが、では、どうしてこのような仕訳が必要なのでしょう？ どうして、取得原価と正味売却価額を比較して、正味売却価額が取得原価よりも下落している場合、正味売却価額をもって貸借対照表価額としなければいけないのでしょうか？ また、商品評価損を費用として計上した場合、損益計算書にはどのように表示すべきなのでしょう？

もし、このような問いに答えられなければ、簿記の仕訳がきれたとしても、本当の意味で簿記を理解できていないことになりません。つまり、計算だけできて、簿記を理解できたことにはならず、その裏にある考え方についても身につける必要があります。

よって、簿記の仕訳を学習する場合、その仕訳の裏にある考え方や会計基準の規定についてもセットでおさえるようにしましょう。これにより、計算問題と理論問題の対策も一緒にできて効果的かつ効率的です。

☆アドバイス☆問題から、どの部分をおさえるべきなのかわかりたい

問題を見ることで、どの部分が問われるのかわかることができます。上記問題では棚卸資産の評価について、取得原価をもって貸借対照表価額とすること、しかし、正味売却価額が取得原価よりも下落している場合は、正味売却価額をもって貸借対照表価額とすべきことが問われるということが分かります。

著作権はビジネスゲーム M-Cass にあります。

◆有価証券（会計理論の問題） 目標時間：初学者 10 分 経験者 8 分

問題（火曜日）

問題 1 以下は「金融商品に関する会計基準」からの抜粋である。

次の文章の()にあてはまる用語を答えなさい。

時価の変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券（以下「売買目的有価証券」という。）は、(A)をもって貸借対照表価額とし、評価差額は(B)として処理する。

問題 2 次の文章について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を答案用紙の所定の欄に記入しなさい。

- 1、時価の変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券は、取得原価をもって貸借対照表価額とする。
- 2、満期保有目的の債券は、取得原価をもって貸借対照表価額とする。ただし、債券を債券金額より低い価額又は高い価額で取得した場合において、取得価額と債券金額との差額の性格が金利の調整と認められるときは、償却原価法に基づいて算定された価額をもって貸借対照表価額としなければならない

問題 3 売買目的有価証券は時価で評価されるが、その理由を述べよ。

解答欄

問題 1 A.

B.

問題 2 1.

2.

問題 3

【解 答】(金融商品に関する会計基準IV2(1)及び(2)参照)

問題 1 A. 時価 B. 当期の損益

問題 2 1. × 2. ○

問題 3

投資者にとり有用な情報及び企業にとっての財務活動の成果は期末時点における時価と考えられるから。

【解 説】

本問では、まいにち簿記の第1回(2週目)連載で出題した、売買目的有価証券の評価に関する理論問題を出題しました。売買目的有価証券は時価評価されますが、その処理についての会計基準の内容と論拠が問われています。時価評価に関する決算整理仕訳を思い出してみてください(評価損の場合)。

<決算整理仕訳>

3/31 [借方] 有価証券評価損 ×× [貸方] 有 価 証 券 ××

こんな感じになるかと思います。簿記では、電卓を叩いて金額を計算し、この仕訳をきってお終いですが、この仕訳の理由についても併せておさえておく必要があります。売買目的有価証券では、①時価評価する理由と②評価差額を当期の損益とする理由の2つおさえる必要があります。よって、仕訳とともに、その理由についても覚えておきましょう。このように、仕訳は論拠とともにおさえると、単純に暗記するよりも、記憶に残りやすくなります。

☆アドバイス☆受験する試験の出題形式を確認しておきましょう

本問では、理論問題の形式について①穴埋め問題、②正誤問題、③論述問題の3タイプを出題しています。①の穴埋め問題は、日商簿記検定1級試験や税理士試験財務諸表論、全経上級試験でよく出題され、主に会計基準の内容が問われます。次に、②の正誤問題は、日商簿記検定1級試験や全経上級試験、公認会計士短答式試験で出題されます。また、③論述問題は、全経上級試験、税理士試験財務諸表論や公認会計士試験論文式試験で出題されます。これらの試験を受験される方は、早めに過去問集を買って、自分が受ける試験では、どのような形で理論問題が出題されているのかチェックしておきましょう。

◆有形固定資産（会計理論の問題） 目標時間：初学者 10 分 経験者 8 分

問題（水曜日）

問題 1 以下は有形固定資産に関する「企業会計原則」からの抜粋である。

次の文章の()にあてはまる用語を答えなさい。

有形固定資産に対する減価償却累計額は、原則として、その（A ）ごとに（B ）する形式で記載する。

問題 2 次の文章について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を答案用紙の所定の欄に記入しなさい。

- 1、貸倒引当金又は減価償却累計額は、その債権又は有形固定資産が属する科目ごとに控除する形式で表示することを原則とし、二以上の科目について、貸倒引当金又は減価償却累計額を一括して記載する方法は認められていない。
- 2、債権又は有形固定資産について、貸倒引当金又は減価償却累計額を控除した残額のみを記載し、当該貸倒引当金又は減価償却累計額を注記する方法は認められている。

問題 3 減価償却には2つの効果があるとされているが、その2つの効果を挙げなさい。

解答欄

問題 1 A. B.

問題 2 1. 2.

問題 3

第 1 の効果：

第 2 の効果：

【解 答】(企業会計原則第三、四(1)B 及び注解 17)

問題 1 A. 資産が属する科目 B. 取得原価から控除

問題 2 1. × 2. ○

問題 3

第 1 の効果：固定資産の流動化
第 2 の効果：自己金融効果

【解 説】

今回までの問題により、簿記で学習してきた仕訳の裏にある理論を問う問題を
出題してきました。理論的な問題を急に問われて戸惑ったという方もいらっしゃるかと
思います。しかし、いままで出題してきた理論問題は、通常の簿記のテキストに載って
いるものばかりなのです。つまり、「仕訳をおさえるぞ」という視点だけでテキストを
みていると、このような理論的なことについて意識がいかず、いざ問われると覚えてい
ないということになるのです。よって、問題集や過去問集などを通して、理論問題につ
いても確認するようにしましょう。このことにより、例えば減価償却ではどの部分が問
われやすいのか、ということが分かるようになってきます。この結果、普段の簿記の学
習においても、理論問題を意識したテキストの読み方ができるようになります。

漫然とテキストを読むのではなく、理論問題であれば、理論問題に対応したテキスト
の読み方を意識する必要があります。

☆アドバイス☆正誤問題（択一式）対策のためのテキストの読み方

日商簿記検定 1 級や公認会計士試験短答式試験では、正誤問題（択一式）が出題さ
れます。正誤問題では、細かい部分も聞かれることがあるため、特に普段の学習にお
いては、意識してテキスト等を読む必要があります。

例えば、減価償却累計額の貸借対照表における記載方法に関する問題で、「原則は科目
別間接控除方式である。これは正しいか、誤りか」という問題が出題されたとします。
このような問題に対処するためには、普段の学習において、減価償却累計額の貸借対
照表における記載方法について、原則は科目別間接控除法であること、例外として一
括間接控除方式と、直接控除注記方式があることを理解し、覚えておく必要があるの
です。このように、正誤問題（択一式）に対処できるようになるためには、正誤問題
（択一式）を意識したテキスト等の読み方があるのです。

◆社債（会計理論の問題） 目標時間：初学者 10 分 経験者 8 分

問題（木曜日）

問題 1 以下は社債に関する「金融商品に関する会計基準」からの抜粋である。

次の文章の()にあてはまる用語を答えなさい。

支払手形、買掛金、借入金、社債その他の債務は、(A)をもって貸借対照表価額とする。ただし、社債を社債金額よりも低い価額又は高い価額で発行した場合など、収入に基づく金額と債務額とが異なる場合には、(B)に基づいて算定された価額をもって、貸借対照表価額としなければならない。

問題 2 次の文章について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を答案用紙の所定の欄に記入しなさい。

- 1、支払手形、買掛金、借入金、社債その他の債務は、債務額をもって貸借対照表価額とする。
- 2、償却原価法とは、金融資産又は金融負債を債権額又は債務額と異なる金額で計上した場合において、当該差額に相当する金額を弁済期又は償還期に至るまで毎期一定の方法で取得価額に加算する方法をいう。

問題 3 社債発行費は原則として支出時の費用として処理するが、将来の期間に影響する特定の費用として、貸借対照表の繰延資産に計上することが容認されている。将来の期間に影響する特定の費用が繰延経理される理由を述べよ。

解答欄

問題 1 A. B.

問題 2 1. 2.

問題 3



【解 答】(金融商品に関する会計基準IV5 及び注解 5 参照)

問題 1 A. 債務額 B. 償却原価法

問題 2 1. ○ 2. ×

問題 3

将来の期間に影響する特定の費用は、費用としてはすでに発生しているものであるが、その効果が将来にわたって発現するものと期待されているため、収益との対応関係を重視して、その効果が及ぶ数期間に配分される。

【解 説】

本問では、まいにち簿記の第 2 回(2 週目)連載で出題した、社債に関する理論問題を出題しました。社債においても仕訳はきれても、いざこのような形で出題されると戸惑ってしまうものです。また、本問において社債発行費に関する繰延経理の理由について、論述式で問うています。論述式の場合、一生懸命に字面を覚えがちですが、繰延資産として計上し、その後の収益と繰延資産償却の費用とが対応する図解を書いて、論証を読むと、字面を暗記するよりも、理解が増し、覚えやすくなります。よって、覚えにくいと思われる論証は、絵や図解といっしょう覚えるといいでしょう。

1、問題 1 の穴埋め問題について

本問では、社債は、取得原価をもって貸借対照表価額とすること。ただし、社債を社債金額よりも低い価額又は高い価額で発行した場合など、収入に基づく金額と債務額とが異なる場合には、償却原価法に基づいて算定された価額をもって、貸借対照表価額とすることが理解できていたかどうかポイントです。簿記の計算問題では、償却原価法の問題ばかりを練習しますので、いざ、このようなことが問われると、以外と答えられないものです。よって理論問題集などを通して、問題で問われる場所を特定し、その部分に意識を集中したテキストの読み方を心掛けましょう。テキストの読み込みで上述のことが理解できていれば、おのずと、問題 2、1 の正誤問題についても対処できますよね。

2、問題 2、2 正誤問題について

本問では「償還期に至るまで每期一定の方法で取得価額に加減する方法」が正しい文章となりますので、「加算」は誤りとなります。ちょっと細か過ぎるのですが、ここで言いたいのは、理論問題では、「計算の知識を使って」解ける問題があるということです。本問の正誤を判断する時に、社債発行の仕訳を思い出し、社債には①平価発行、②割引発行、③打歩発行の 3 種類があったということに気づけば、「加算」とされているのは誤りだと気づくことができます。よって、理論問題であっても、理論対策だけでなく、やはり計算の知識も必要となるのです。

【解 答】(企業会計原則注解 18、金融商品に関する会計基準 V1 参照)

問題 1 A. 将来の特定の費用又は損失 B. 発生が当期以前の事象に起因
C. 発生の可能性が高く D. 金額を合理的に見積る

問題 2 1. ○

問題 3

〔借方〕	買 掛 金	100	〔貸方〕	現 金 預 金	90
				仕 入	10

【解 説】

本問では、まいにち簿記の第 3 回 (1 週目) 連載で出題した、貸倒引当金と割引に関する理論問題を出題しました。問題 1 は引当金に関する 4 つの要件が問われています。

また、問題 3 では、公認会計士論文式試験にならって、考えさせる問題を出題しました。このように考えさせる問題では、日頃の学習から、しっかりと考えて仕訳を理解していたかどうか重要です。特に、2 つの処理方法があるような論点は比較して問われることも多いため、両方法の違い等を意識しながらおさえるようにしましょう。

☆アドバイス☆税理士試験や公認会計士試験の理論問題のおさえ方

税理士試験や公認会計士試験となると、付け焼刃の知識では太刀打ちできません。

簿記の会計処理とともに、その論拠をしっかりとおさえていく必要があります。

私が受験生時代は、以下のような感じでおさえていました。ご自身の学習方法の参考にしてみてください。

例：売買目的有価証券について (取得原価 100 円、時価 90 円)

決算整理仕訳：【借方】有価証券評価損 10 【貸方】有価証券 10

期末における評価：時価

時価評価する理由：投資者にとり、有用な情報及び企業にとっての財務活動の成果は時価だから。

評価差額の処理：評価差額は当期の損益とする。

当期の損益とする理由：売却することについて事業遂行上の制約がないから。

評価差額の会計処理：切放方式または洗替方式

評価損益の P/L 表示：営業外収益又は営業外費用

売買目的有価証券の B/S 表示：流動資産

<おわりに>

1、まずは、仕訳を3つの観点でおさえましょう。

簿記学習の大半が、仕訳をおさえることに費やされます。この仕訳をおさえるときには、①その勘定科目がどの勘定に分類されるのか、②金額の計算方法はどのようにすべきか、③財務諸表への表示はどのようにすべきか、という3つの観点でおさえるようにしましょう。そして、その3つの観点には、それぞれ理由があります。その理由が理論問題で問われるわけです。よって、仕訳を学習する時には、上記3つの観点から理由も含めておさえておくと、計算と理論の両方の対策となります。

このような計算と理論の知識は、税理士や会計士、経理担当者としてお仕事についてからも重要です。なぜなら、顧問先の経理担当者が売買目的有価証券について、取得原価で貸借対照表に計上しようとしていた場合を考えてみて下さい。その時は当然に「時価に評価し直して貸借対照表に計上して下さい」と指導しますよね。ですが、「どうしてですか？」と聞かれたとき、その理由をちゃんと答えられなければ、相手方も納得しませんし、何より、会計プロフェッショナルとして失格ですよね。よって、簿記の計算だけでいてもダメで、その会計処理の理由や、その結果生じる金額の意味などもちゃんと理解しておく必要があるのです。

2、次回はいままで組み合わせで出題します

第3回目までは、簿記の問題構造や出題パターン、理論問題についてみてきました。次回では、いままでみてきた問題を様々な組み合わせで出題し、かつ、日商簿記検定1級試験や全経理上級試験、税理士試験、公認会計士試験風アレンジして出していきます。このことにより、どの試験も、まずは基本をおさえること、そのうえで、簿記の出題パターンを理解し、あとは各試験の出題形式に慣れていけばいい、ということを理解していただこうと思っています。